



岡山大学との健康管理共同研究開始



MCSCC会員企業であるアーキテクトグランドデザイン株式会社 (AGD) は、岡山大学学術研究院医歯薬学域公衆衛生学分野 (神田秀幸教授。以下「岡山大学公衆衛生学分野」) と共同でウェアラブル・デバイスを活用した健康管理サービスの構築に向けた研究・検証に取り組むと1月24日発表しました。研究調査期間は2024年2月1日～12月31日までの予定。2つのテーマ (①eスポーツ選手の健康管理、②高齢者の健康管理) に取り組む予定となっています。得られたデータや知見などは、将来、日本国内や海外で展開されるスマートシティに暮らす住民の健康管理サービスなどに適用していく考えです。



今回の研究・調査で使用するウェアラブル・デバイスは、HUAWEI (ファーウェイ) 社のスマートウォッチ「HUAWEI WATCH Dウェアラブル血圧計」です。AGDは、このスマートウォッチを40個、さらにタブレット端末を40個、華為技術日本株式

会社 (ファーウェイ・ジャパン) から寄贈を受けて、岡山大学公衆衛生学分野と共同で研究/検証に取り組みます。WATCH Dは、血圧や心拍数、血中酸素レベル、ストレス、皮膚温度、睡眠などの生体情報を365日24時間測定可能で、測定結果はクラウド環境にアップロードすることが可能です。

西ジャワ州長官と雲仙市視察

2月8日、MCSCCバリ島プロジェクトにも深く関わってきたインドネシア西ジャワ州REBANA首都圏管理庁最高経営責任者Bernardus Djonoputro (ベルナルドゥス・ジョノプトロ)氏が雲仙市を視察することとなり、この件でMCSCC豊崎代表理事が金澤秀三郎雲仙市長を表敬訪問しました。



また、Bernardusインドネシア西ジャワ州REBANA都圏管理庁最高経営責任者は、訪問先において雲仙市職員から雲仙地獄の爛付けの仕組み等、現地事情について広範に説明を受けました。



MCSCCとしては、これまでのプロジェクトでの役割の重要性を踏まえ、Bernardus氏を特別顧問とし、今後の展開に向けて助力を頂く考えです。